

第38号

浜かいどう通信

＝ 発行 ＝

一般社団法人 茶道裏千家淡交会 いわき支部

〒971-8172

福島県いわき市泉玉露3-13-15

伊東宗恭方

TEL・FAX 0246-96-5232

＝ 編集 ＝

総務委員会



令和六年第三十回淡交会いわき支部定期総会が、二月十二日（月）いわきワシントンホテル椿山荘アゼリアにて、いわき市長内田広之様を来賓にお迎えして開催されました。新型コロナウイルス感染症に

第三十回定期総会報告

渡邊 宗 静

より縮小して行われていた総会でしたが、昨年五類に移行されたことで、四年ぶりに呈茶席を設けました。令和元年の東日本台風、令和二年の福島県沖地震、令和五年の台風十三号による水害、そして今年元旦に起きた能登半島地震といっ起こるかわからない災害がある時、このような席を設けることが出来ることは、あたり前のことではなく、ありがたいことだと、皆さんが楽しそうに歓談している姿に、大変うれしくそして、感謝する時間でもありました。お床には鵬雲斎大宗匠のお筆で「松樹千年翠」の扇面、干支香合、鶴首亀甲花入(唐銅)に一子椿の花を入れて、新春を

寿ぐものとなりました。

「淡交会の歌」も四年ぶりに声を出して歌いました。来賓のいわき市長内田広之様は、長い間剣道の道を歩まれてきたそうです。「剣道」も「茶道」も道がつかます。どちらも技を身に付けることはもちろんですが、その奥には、人を想う、人を敬うなど精神論があると話されました。いわき市の町づくりや文化芸能の

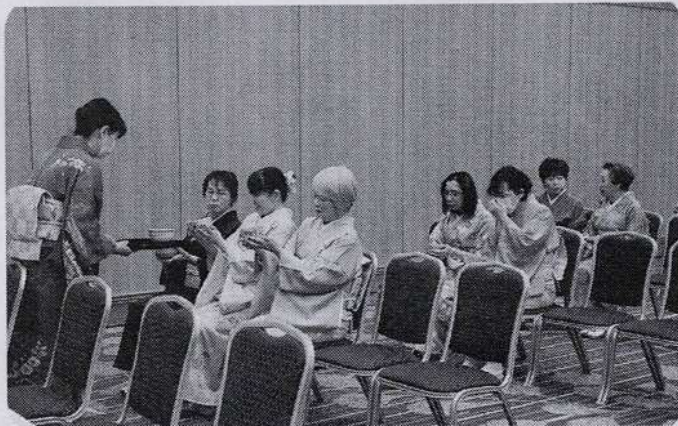


発展に活かされているようです。伊藤博人支部長は、東北地区大会が東北のつどいと名称を変え、令和八年に福島支部が主管となり福島県で行われること、又、平成七年にいわき支部が発足して今年が三十年の節目を迎えることから記録と記憶に残る三十周年になることを望まれていると話されました。

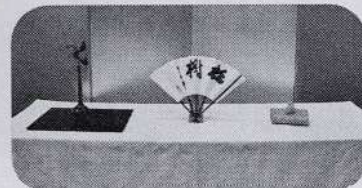
伊東宗恭幹事長は、ホームページ・ライン・ズームによる会議と世の中がデジタル化社会になっていること、会員同士の交流の為に月釜茶会の必要性を問いかけられました。

総会は議長に志賀宗正様が選出され、総会の出席者が三六四名（委任状含む）となり定足数に足りていることを確認して開始しました。

令和五年度事業報告、決算報告、令和六年度の事業計画



(案) 及び収支予算(案)の審議に活発な意見もあり、承認可決されて終了致しました。会場には、能登半島地震の義援金にと募金箱が設けられ、多くの善意が寄せられました。令和六年度、三十周年記念行事、研修会、茶会と活動が動き出します。



懇親会に 参加して

木下宗善

令和六年の総会の後四年ぶりの懇親会をいわきワシントンホテル椿山荘三階アゼリアにて行われました。(参加者は六十九名)

始めに伊藤支部長よりご挨拶を賜り、続いて懇親会の開催を祝い、邪気を払い、清めるという意味をこめて居合道の演武を、「居合道教士八段」志賀正光様に立ち業を七本抜いて頂きました。

居合は刀を腰に携えた「武士」の護身術だそうです。そのため、あらゆる場合を想定した業が合わせて五十六本あり、その内の七本です。

一本目 虎乱刀(こらんと)
二本目 行き連れ(ゆきづ)



れ)左右二人の敵に挟まれ連行されたとき。

三本目 総留め(そうとめ)
四本目 門入り(もんいり)
門の向こうに二人と後ろの敵一人の三人

五本目 受け流し(うけながし)前方一人の敵の真向斬りに対処

六本目 三方切り(さんぱうきり)前方と左右の三人敵に対処



七本目 添え手突き（そえてつき）歩行中に左の敵の殺気を感じて対処

式次第に書いてありました（読みあげる事なく申し訳なく思っております）

次に乾杯の発声を村田副支部長にお願いし、会食・歓談も進み、お待ちかねの福引の時間となり懇親会のはじまる前に入り口の所で皆様にくじを引いてもらいました。先ず

支部長より直々に一番から五番を引いた方に賞（お品）を渡されました。

番号を呼ばれた方は前においで頂き、色々な福の品をお受け取りました。お菓子、お酒、米、茶道具と支部長はじめ役員の方々からの提供の品々です。当たる人と当たらない人と別れますが、皆楽しみにしておりました。

美味しいお料理に心和む会食はいかがでしたでしょうか。中締めを木田宗亨様にお願いいいたしました。

今回、司会進行を事業委員会の菅野と木下で務める事になり慣れない二人でしたが皆様のご協力をいただきながら楽しいひとときを過ごす事ができ、反省は多々ありますが無事懇親会を終える事が出来ました。

これからお茶の心を大切に、そしてつなげて行きたい

と強く思っております。来年も、数多くの皆様の参加をお待ちしております。ありがとうございました。

皐月 月釜茶会

小野 宗 賀

五月晴れとなった五月十二日。一年数ヶ月ぶりとなる月釜茶会を木下宗善先生、渡邊宗静先生と担当させて頂きました。



鵬雲斎大宗匠が四月十九日に一〇一歳となられ、今年になつてからテレビで二度お話を拝聴いたしました。

その中で、茶道の根幹の『和敬静寂』について力強くお話をされ、心に響きましたことからテーマを『和』と致しました。

大宗匠御好の与斎の雲龍釜と風炉をすえ、所々に円型や七宝などのお道具を取り合わせ、お菓子はきよめ餅総本舗の藤団子を。菓玉の五色にならない、厄除、五穀豊穰を願ったもので、今年はパリオリンピックも開催ですから、これ

は外せないとなりました。
お軸は坐忘齋お家元のお力をお借りし、見守って頂きました。

茶杓の銘の『虎溪三笑』のとおり、席主としてお客様との会話を愉しませて頂き、感慨深く忘れられない一日となりました。

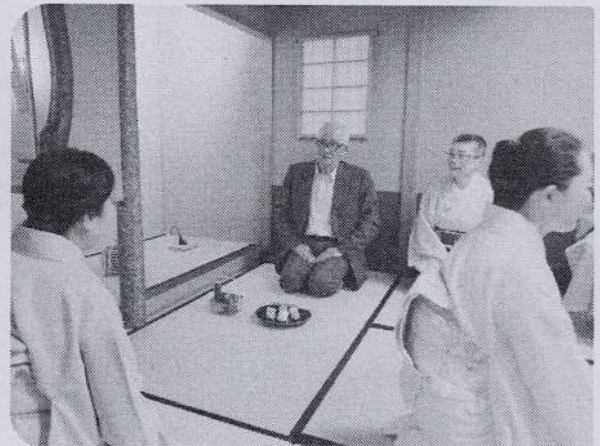
初風炉の季節に多くの皆様にお出まし頂きました事、心から感謝申し上げます。
有難うございました。

水無月 月釜茶会

山内 宗由

令和六年六月十六日、生涯学習プラザ五階茶室にて、月釜茶会を佐川宗伸先生と担当させて頂きました。

当日の六月十六日は「嘉祥」の日ということ、「嘉祥」とは、平安時代中期に疫病が蔓延していた折、仁明天皇が、



十六種の菓子を神前に供えて、厄除け、健康招福を願い、元号を「承和」から（めでたいしるし）という意味の「嘉祥」に改元したのが始まりとされており、その風習は時代と共に七種の菓子に変わっていき、昭和になって由緒あるこの伝統行事を後世に受け継いで行こうということ、全国和菓子協会が「和菓子の日」として制定し、和菓子を食べて無病息災・除災招福を願う

日とありました。

この日にちなんだ、おもてなしが出来たらと考えました。待合には、「宝剣在手裏」

喝堂和尚筆 鍾馗様 高園柏 郵画賛を掛け、季節の七種のお菓子を「みよし」さんに作っていただき、佐川宗伸先生と共に「宝剣」知恵を出し合い、少しでも楽しんでいただきましたという想いでしつらえました。

本席のお軸「無心是道場」正にこの心境で、はじめて月釜を担当させて頂き、無事終えることが出来ました。

支部長をはじめ多くの皆様に、お忙しいなか、おいでいただき感謝申し上げます。

未だ未だ、勉強不足で至らない点が多々あったかと思いますが、これからも茶道を通じて多くの学びと、出会いを大切に精進して参りたいと思います。

いわき支部 設立30周年 記念行事ついて

□日時 令和6年9月16日(月祝) 9時～

□会場 いわき市文化センター

・受付 9時～

・茶席 9時30分～13時

・濃茶席

・薄茶席

・学茶・青年部席

・式典 13時30分～14時

・講演会 14時～15時30分

・講師 松村栄子氏

・演題 「ひよっこ茶人の 京(みやこ)暮らし」

(芥川賞受賞作家、いわき応援大使)

編集後記

季節の移り変わりは早いもので、盛夏の季節となりました。これから暑い日が続くかと思えます、お体には十分お気を付けてお過ごし下さいませ。